

キャッシュレスの現状及び意義

商務・サービスグループ

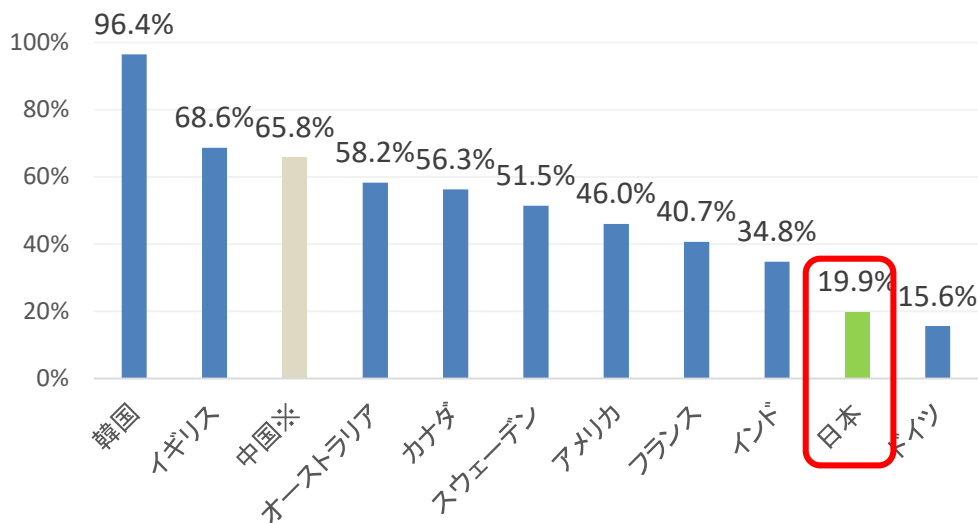
キャッシュレス推進室

2020年1月

日本のキャッシュレスの現状と目標

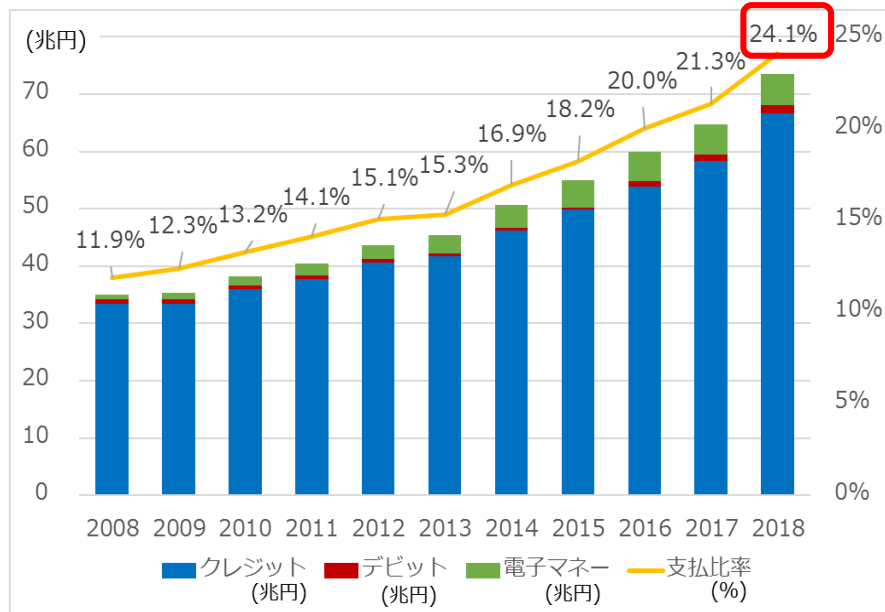
- 日本のキャッシュレス決済比率は約20%にとどまっているが、主要各国では40%~60%台。
- キャッシュレス決済比率を2025年までに4割程度、将来的には世界最高水準の80%を目指す。

世界各国のキャッシュレス比率比較 (2016年)



(出典) キャッシュレス・ロードマップ2019

我が国のキャッシュレス支払額及び比率の推移 (2018年)



(出典) 内閣府「2015年度国民経済計算年報」 民間最終消費支出: 名目
 (一社) 日本クレジット協会調査(注) 2012年までは加盟クレジット会社へのアンケート調査結果を
 基にした推計値、平成25年以降は指定信用情報機関に登録されている実数値を使用。
 デビット: 日本デビットカード推進協議会(J-debit) 2016以降は日本銀行レポート。
 電子マネー: 日本銀行「電子マネー計数」

「成長戦略フォローアップ」(令和元年6月21日閣議決定)

【抜粋】 2025年6月までに、キャッシュレス決済比率を倍増し、4割程度とすることを旨とする。

「キャッシュレス・ビジョン」(平成30年4月11日 キャッシュレス検討会策定)

【抜粋】 大阪・関西万博(2025年)に向けて、「支払い方改革宣言」として「未来投資戦略2017」で設定したキャッシュレス決済比率 40% の目標を前倒し、高いキャッシュレス決済比率の実現を本検討会として宣言する。さらに将来的には、世界最高水準の 80% を目指していく。

キャッシュレス決済とは ～ 主なキャッシュレス決済の例

クレジットカード



- ✓ 後払い
- ✓ 与信審査あり
- ✓ スライド式/読込 (IC)式
/タッチ式

デビットカード



- ✓ 即時払い
- ✓ 与信審査なし
- ✓ スライド式/読込 (IC)式
/タッチ式

電子マネー (プリペイドカード)



- ✓ 前払い
- ✓ 与信審査なし
- ✓ タッチ式 (非接触)

モバイルウォレット (QRコードなど)



- ✓ 他の決済手段と紐づけ
スマートフォンで決済
- ✓ カメラ読込 (QR)
タッチ式

【参考】QRコードの種類

	店舗提示型 お店がコードを提示	利用者提示型 消費者がコードを表示
動的 決済の度に異なるQRを表示	<p>お店側がQRを提示 (金額も決済の度に表示)</p> <p>消費者は読取り</p>	<p>消費者がQR/バーコードを表示</p> <p>①バーコード ②QRコード</p> <p>お店側は読取り</p>
静的 お店毎に常に同じQRを表示	<p>お店側がQR (紙) を提示 (金額は表示されず)</p> <p>消費者は読取り (金額を打ち込み)</p>	ほとんど存在しない

キャッシュレス推進の意義・メリット

1. 消費者の利便性の向上

- 手ぶらで簡単に買い物が可能に（大金の持ち歩きや小銭の管理が不要に）
- お買い物の消費履歴の管理が簡単に（自動家計簿など）
- カード紛失・盗難時の被害リスクが低い（条件次第で全額保証）

2. 店舗の効率化・売上拡大

- 現金管理の手間の削減が可能に
 - レジ締めに係る作業時間はレジ1台当たり25分、1店舗当たり平均1日153分。これらの作業時間の短縮に。
 - 従業員による売上現金紛失・盗難等のトラブル減少
 - 現金の搬出入回数の減少
- インバウンド需要取込など売上拡大が可能に
 - 訪日外国人の約7割が、クレジットカード等が利用できる場所が今より多かつたら「もっと多くお金を使った」と回答。こうした訪日外国人の需要をつかむことが可能に

3. データの利活用

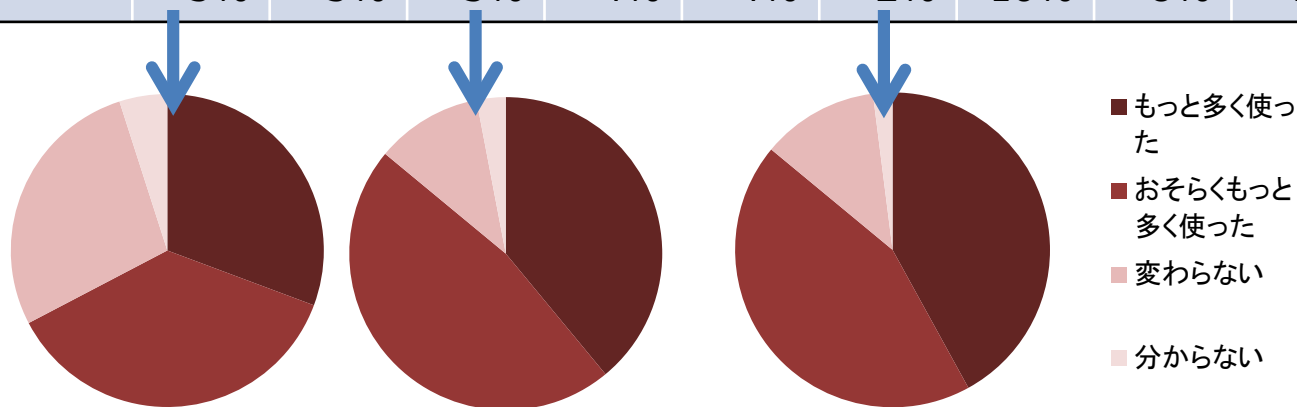
- 個人の購買情報を分析・利活用することにより、高度なマーケティングやターゲット層向けの商品・サービスの開発が可能に

決済環境の整備がもたらすインバウンド消費の拡大

- 訪日外国人の約7割が、クレジットカード等が利用できる場所が今より多かったら、「もっと多くお金を使った（おそらくを含む）」と回答。
- 特に中国(訪日客数1位※)、タイ(同6位※)は86%と高い回答。※JNTO調べ

Q. 日本で外貨両替やクレジットカード・キャッシュカードを利用できる場所が、もし今より多かったら（回答は1つ）

居住地域	全体	韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	アメリカ	オーストラリア	イギリス	フランス
サンプル数	2545	311	358	380	388	310	221	131	142	76	111	57	60
もっと多くのお金を使ったと思う	31%	20%	39%	38%	27%	42%	22%	34%	38%	25%	22%	11%	18%
おそらくもっと多くのお金を使った	37%	32%	47%	29%	39%	44%	38%	39%	35%	29%	25%	26%	28%
お金を使う額は変わらないと思う	28%	43%	11%	29%	30%	12%	30%	20%	27%	41%	44%	49%	47%
分からない	5%	5%	3%	4%	4%	2%	10%	8%	1%	5%	9%	14%	7%



(出典) DBJ・JTBF アジア・欧米豪
訪日外国人旅行者の意向調査（平成28年版）

レジ締め作業の時間（人手不足、生産性向上の課題）

現金・キャッシュレス決済に関するアンケート調査分析

「レジ現金残高の確認作業」に、最も時間が費やされている。

レジで現金を取り扱う業務の現状



平均値 **25分**/日・台
中央値 **20分**/日・台

平均値 **153分**/日・店
中央値 **30分**/日・店

平均値 **23分**/日・店
中央値 **15分**/日・店

現金取り扱いコスト（生産性向上の課題）

現金決済インフラを維持するために、年間約1.6兆円を超える直接コストが発生している。

現金決済インフラの直接的な社会コスト(年間)

